

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 03 月 28 日作成)

委員会名	生産情報小委員会 (Sub Committee on Construction Information)	主 査 名：種 田 誠
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納 成男
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>建築生産は分業で進められ各分担主体における情報処理の円滑化，確実化が重要である。ここで言う情報処理とは建築の発注から維持管理にいたる建築生産のプロセスに発生する各主体間の交渉等をふくめた諸問題，解決の手法等，広義に解釈する。21 世紀を迎える社会ニーズは情報公開，プロセスの透明性はもとより発注・受注形態の多様化，次世代教育，紛争の早期解決等まで多種にのぼり，またここ数年試行過程にあった電子商取引も一層の成熟が期待されている。しかしながら電子的手段を駆使した建築生産において個々の生産単位での情報技術が実現されても一連の連鎖過程では何らかの社会的ルール下で検討，遂行されるべきことは自明である。</p> <p>本小委員会は建築生産プロセスにおける社会的ルールの現状分析，あるべき姿の検討，研究，提案を行うことを目的とする。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	深井和宏(ものつくり大学)，松本光平(明海大)，種田誠(戸田建設)，佐々木良和(竹中工務店)，山川純一(都築通信)，江藤孝行(フジタ)，岡正樹(バス)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	実施 12 回 / 予定 10 回： (4/25 (5 人), 5/30 (6 人), 6.27 (4 人), 7/18 (6 人), 8/22 (4 人), 9/19 (6 人), 10/17 (5 人), 11/19 (4 人), 12/16 (4 人), 1/30 (5 人), 2/27 (5 人), 3/19 (5 人))
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>1) 建築生産プロセスの透明性についての研究は，海外建築資材の調達プロセスをテーマに事例比較を行うことで，一定の成果が得られた。</p> <p>2) 現状のプロセスと社会ルールとの齟齬から発生する紛争を含めた諸問題については，ほぼ毎回の討議しており，建築生産に携わる者の説明責任に対する解釈の違いに起因することが見えてきている。</p> <p>3) 生産情報の電子化の一環として，木造住宅の CAD/CAM プロセスの事例研究を行った。これについては CAD/CAM メーカーに対してヒアリング調査を行うなど，既往の研究より一歩進んだ成果を得つつある。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>年間で 12 回委員会を開催しており，毎回熱心な討議・研究が行われている。今年度においても木造住宅 CAD/CAM と伝統的木割の比較研究を始めるなど研究過程の価値は高い。</p>
その他評価すべき事項	建築学会において，建築生産の実態に即した研究を継続的に行っている数少ない委員会である。